

ギリシャ神話では、この海蛇はレルネア地方のアミーネの沼に住む九つの首を持ち、うち一つは不死身という怪蛇で、一つの首を切り落とすと、そこから二つの首が生えてくる怪物でしたが、英雄ヘラクレスに、切り首を焼かれ、不死身の首は岩の下に埋められて退治されたといいますが、

お酒を飲ませて酔って眠った隙にと退治の仕方は違っていますが、首がいくつもあって切っても切っても生えてくるところは、なんだか日本神話のヤマトタケルのヤマタノオロチ退治のお話に似ていますね。

世界各地の伝説の類似性など、星を見る楽しさ以外にも興味深いことはたくさんあります。不思議に思ったら皆さんも調べてみると面白いですよ。

★今月のテーマ 上弦の月を観る会

今年は桜が満開の中、上弦の月を観る会を開催します。春霞の中、比較的暖かい月夜になりそうですが、どのような姿を見せてくれるのでしょうか。お花見シーズン真っただ中、桜に誘われて羽目を外しすぎないように、なんて言わなくてもホシミストの皆さんは落ち着いたお花見をするんでしょうね。

それではみなさんお月見とお花見を楽しみましょう。

-次回の天文クラブ-

●4月の星を見る会

4月9日(土)午後7時30分より
月の観察
春の星座観察

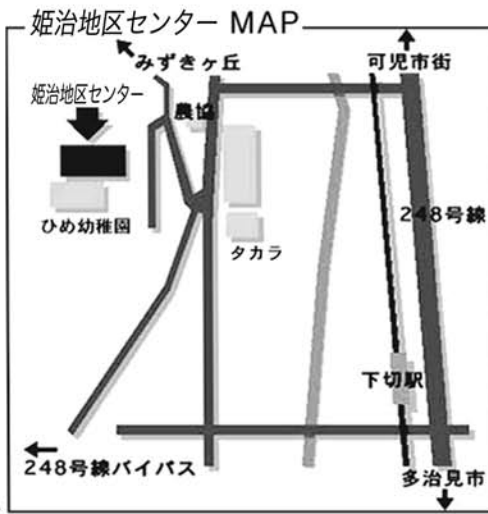
●5月の星を見る会

5月28日(土)午後7時30分より
春の星座観察

※観察時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

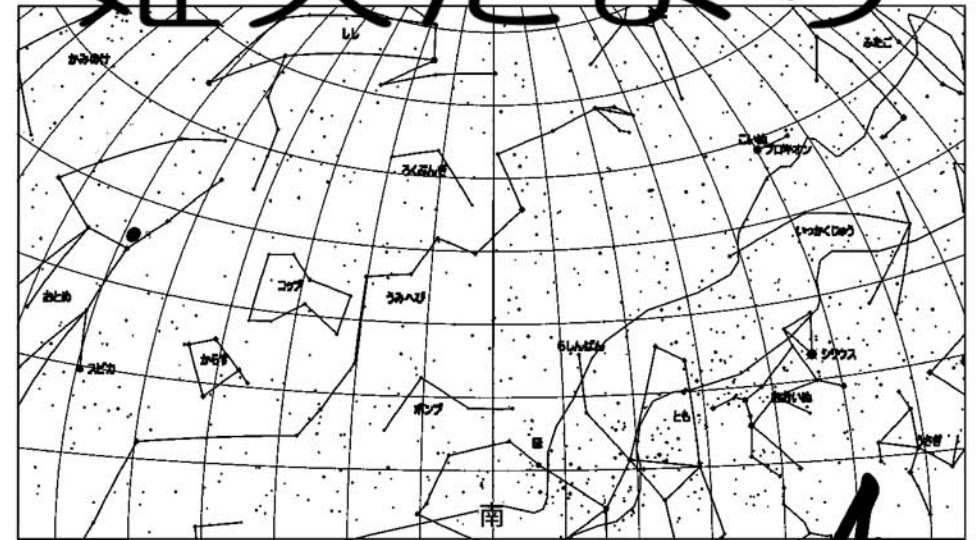
姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分
2022年4月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

姫天だより



4月15日午後8時の南の空

4
月号
2022

★今月の星座 うみへび座

4月の下旬、南の空のあまり高くないところに、うねうねと体をくねらせながら細長く続く“うみへび座”が横たわっています。この星座は、全天で88ある星座の中で、一番長く、また面積でも一番大きな星座です。

探し方は、しし座の1等星レグルスの西側に小さな星が5~6個ひとかたまりになって、海蛇の頭を作っています。そこから東へ“ろくぶんぎ座、コップ座、からす座、おとめ座”を背中に乗せ、てんびん座の西隣まで、100度以上も続いています。

うみへび座がいかに長いかは、海蛇の頭が南中(真南に星が来ること)したところを見るとよく分かります。頭は南中していてもしっぽは、まだ地平線の下に隠れているからです。

もっと分かりやすくお話しすると、頭が午後8時に南中するのは3月下旬ですが、しっぽの先の星が同じ午後8時に南中するのは6月下旬、3ヶ月も先なんです。

うみへび座には明るい1等星のような目立つ星はありません。先ほどの頭を形作っている星は蛇の名にふさわしい形をしています。しかし、うみへび座で一番印象的な星は、海蛇の心臓に輝く2等星でしょう。この星は、うみへび座のα星で、アルファルド(孤独なもの)という名前がついています。この名前はアラビア語のアル・ファルド・アル・シュヤー(蛇の一つ星)からきた名前です。実際に夜空をながめると、明るい星のない春の南の空にポツンとひとつさみしげに光る星の名前にふさわしく感じます。